

<h1>出張報告書</h1>	幹 事 長 印	経 理 責 任 者 印

平成29年10月20日

幹事長
佐古員規殿

出張者氏名 佐古員規 印

下記のとおり報告します。

1. 出張先 全国市町村国際文化研究所
(滋賀県大津市唐崎2-13-1)
2. 出張日時 平成29年10月5日(水)～平成29年10月6日(木)
3. 出張用務(宿泊を要する場合はその事由)
地方議員セミナーへの参加
 1. 協働と交流のまちづくり
 2. 超高齢社会において町村が先導する自治経営モデル
 3. 地域の本来的価値と地域づくり
 4. 地域の強みを活かした農林水産物の海外販路開拓
4. 旅 費
セミナー受講料 6,650円
(内訳: 研修費 2400円、宿泊費 2250円、その他 2000円)
交通費 6,340円

計 12,990円

5 報 告

(1) テーマ「協働と交流のまちづくり」

講 師：市村良三氏（長野県小布施町 町長）

協働と交流のまちづくり

■まちづくりの5つのポイント

- ①人口政策：果樹を中心として農業立町、文化遺産を活かした文化立町
- ②北斎館などの美術館：小布施に残された北斎の肉筆画を一堂に集めた「北斎館」を開館
- ③地場産業・栗菓子店の活躍：お客様を迎えて、栗菓子の老舗は、小売・飲食サービスを開始した
- ④町並修景事業：事業の特色
 - ・マスタープランがないこと（都市計画ではない）
 - ・時間を十分にかけて関係者の納得の得られることを前提に進めたこと
 - ・そこのある要素（建物・機能）を外に出さないゾーニングをしない＝田舎
 - ・補助金を受けない。ひも付きにならない。我々が初だから前例がないから
 - ・官民、民民の境界を見えるようにしない
 - ・田舎らしさを大切にすること（人の庭を通り抜ける等）
 - ・生活の居住空間の快適性を上げる
 - ・乗りにくいステークホルダーにやさしくする
 - ・生活の中からでるものを隠さない（ごみなど）
- ⑤花のまちづくり：町並修景事業で「景観」を意識した町民が、歩調を合わせるように「花」によるまちづくりを展開。さらに、フローラルガーデンの開園、全国ガーデニングサミットの開催など

■第二ステージへ・・・自立

小布施町の強みを生かす

- ・高い町民力（協働力、交流力）
- ・町域面積の小ささ（ちょうどよい）
- ・来訪者が求める「なつかしい ほっとする やすらぐ いやされる」

■第二ステージへ・・・協働のまちづくり

- ①町民と協働
- ②大学・研究機関との協働
- ③地場企業との協働
- ④町外企業との協働

■第二ステージへ・・・中心部の更なる整備

車から人へ～国道403号整備デザイン

- ①良好な景観と利便性の向上
- ②画一的な町並み～拡幅事業の弊害
- ③必要なのはイメージの共有
- ④国道整備で実現したいこと
 - ・車道の幅は変えない
 - ・民地の協力と電線電柱類の地中化による歩きやすい歩道の確保
 - ・歩車道の整備で結果として今ある建物を極力壊さない。
- ⑤森の駐車場の整備（本物の森を目指して）

■第二ステージへ・・・北斎館周辺から農村部へ

農村部の活性化

- ・農村イベントによる交流
- ・きっかけ・磁場づくり
- ・新しいスポーツの起業嘉化
- ・コミュニティの研究
- ・遊休空間の活用
- ・強い吸引力の持つ拠点づくり
- ・健康づくり事業（新産業・農・商・医療・サービス）
- ・様々な外部企業との協働（起業家の集う街）

■さらに第三ステージへ・・・若者の流れをつくる

- ・小布施若者会議の開催
- ・地元の若者の知恵の活用具現化
- ・町外の若者の知恵の活用具現化

考察：

小布施町の考え方の驚きは、まず国道整備について、一般的な道路整備は、道路の複車線化と極力直線化等の整備を行うが、小布施町においては極力道幅を変えずに景観及び利便性も考慮した整備を行ったこと。またそのことにより人が歩く道としては最高の環境になったことと憩の観点から、森オアシスゾーンをつくるなど人にやさしい開発となっている。また、町長の「この土地はコメが育たない。だから付加価値に活路を見出したのです」という斬新な発想力に感動した。田舎であることとその特徴を活かしたまちづくりや、地元に限らず町外の企業とも連携協働をおこなっていること、また、若者会議の開催など地元や町外の若者の知恵もしっかりと事業に取り入

れて、次世代に受け継ぐ将来のまちづくりを見つめなおし未来の担い手を育成していることは大変参考になった。地域間交流から世代間交流がこれから最も重要と考える。熊取町でもまずは地元商工業の若手経営者等との意見交流や、熊取町役場の若手職員との意見交流も行えるところから実施したいと思う。

(2) テーマ「超高齢社会において町村が先導する自治経営モデル」

講師：辻 琢也氏（一橋大学副学長）

超高齢社会において町村が先導する自治経営モデル

■超高齢・人口減少社会の到来

- ・このままいくと2100年には日本の総人口は5千万人弱まで減少
- ・高齢者の中でも年齢階層により増加率が異なる
- ・単独世帯、特に高齢者単独世帯が増加

■地方財政の変貌と市町村合併

- ・市町村合併による市町村数の変遷

我が国の市町村数は明治21年で7万超だった町村が、明治、昭和、平成と3度の
大合併を経て、現在では1,727市町村にまで減少

■まち・ひと・しごと創生と地域圏構想の推移

- ・「コンパクト+ネットワーク」の形成
- ・雇用と豊かな生活環境の創出
- ・広域連携・定住自立圏構想の推進

■広域的課題

- ・地域医療・地域公共交通・多様な生活機能の確保
- ・持続可能な地域づくりのための～小さな拠点～

■公営企業・地方独立行政法人改革と自治体間連携

- ・複数市町村による地方独立行政法人の共同活用の新たな仕組みづくり
- ・人口減少問題に的確に対応する地方独立行政法人の在り方

■都道府県による補完

- ・市町村から都道府県への事務委託

考察：

超高齢・少子化社会が国としての最大の課題でもある中、他府県、他市町村の現状をよく把握分析し、熊取町においても、地域医療や地域公共交通、福祉の面からも本町の抱える課題をより広域的に捉えて、広域連携を強固に築くことが重要と考える。災害時においても府へ委託できる事業を洗い出し、事業委託も考える必要がある。

(3) テーマ「地域の本来的価値と地域づくり」—何を上乗せするか—

講師：宮口 侗廸氏（早稲田大学名誉教授）

地域の本来的価値と地域づくり

■地域づくりとはいかなる営為か？

- ・時代にふさわしい価値を内発的に作り出し、地域に上乗せする作業

■自らの地域の本質を知ろう—日本はどういう地域からなっているのか—

①オーソドックスな日本

九州から東北まで農村風景は同じ。水田の高い生産力。

夏でも水があるのがすべて。

農村は人口が増えては困る場→農村に不要な人は都市へ流出

②ユニークな日本

水田文化が根付かなかった沖縄。農業が大規模化した北海道

水田ができなかった西日本の斜面集落、離島

③高度成長期以降の変化

高度成長期に都市の職場が爆発的に増える→農村の後継者まで都会へ
大都市近隣農村の都市化、遠隔農山村の過疎化

■農山村の価値はどこにあるのか 経済的価値とは別の人間論的価値

- ・農山村の本質的価値は「人が自然と共生して生命を育む生産の場」。
- ・人口を増やさなかった農山村の風景にはゆとりの美学があり、自然を巧みに使いこなす手仕事の技がある。

※少ない頭数でいかにうまくやっていくかにつきる

- ・新しい道具・人材が地域に上乗せされるべきこと→その実現の可能性
→農村に関心の若者増加→農村には大きな風

■なぜいま農山村が注目を浴びるのか

- ・都市にはない価値に若者の関心（地域おこし協力隊）
- ・農村の極めて高い価値を持つ暮らしの場

・高齢者を支える新しい仕組みも生まれてくる。1集落1カフェ。

■都市的な地域の価値はどこにあるか

・人の接触が刺激と活力を生み出す→人と人が接触する場と機会をつくる（広場をつくる）ことが重要。

■活性化するということを根源的に考える

・人と人の人間の反応で人は生まれ変わったり（成長）新しい組織が生まれたりする。人とモノの反応で特産物が生まれる。

■新たな接触をつくる交流・移住こそ地域に上乘せすべきこと

・違う系統の人は違う力とセンスを持つ→よそもの・ばかもの・わかものを活かす

■パワーを持つ人に移住してもらうには

・サテライトオフィス群→古民家再生

考察：

海外から見て日本の農村には、素晴らしい特色があり、その特色を生かした取組を行ってきた。今後ますます人口の大都市への一極集中する中、地方を見直すチャンスがあるはず。ここ熊取町においても、とかいなかをモチーフに大都市大阪のベッドタウンとして発展してきたが、今後は、4つの大学、豊かな自然など恵まれた環境を生かし、若者を中心として企画立案し、人と人が触れ合える様々な機会としてにぎわい創出をより一層推進すべきと考える。

(4) テーマ「地域の強みを活かした農林水産物の海外販路開拓」

講師：江口 慎一氏（㈱轍 代表取締役）

地域の強みを活かした農林水産物の海外販路開拓

■日本料理への高い関心

・日本食ブームから普及、浸透へ

海外の日本食レストラン数は9年で約3.7倍に（アジアは2020年233兆円）

・国内市場は縮小へ

■農林水産物・食品の輸出額の推移

2019年：1兆円規模に

■食文化・食産業のグローバル展開

・日本食文化の普及（メディアの効果的活用）

・海外での日本食材の活用推進（日本の柚子をメニュー化、高級食材としてホタテ）

・農林水産業の輸出力の強化（オールジャパンで輸出に取り組む）

※日本産農林水産物・食品の輸出目標 H31：1兆円の達成を目指す

■オリンピックパラリンピック大会における飲食提供

・飲食の提供場所と主な提供対象・メニュー

・調達基準：持続可能性に配慮した調達コードの概要

※海外の状況を把握しておく必要がある。HACCP、GAP GMP

■何のために輸出するのか

・販路拡大・新規販路開拓

細いサツマイモ、長芋、小さいリンゴ、ロウソクサバ

・国内での需給調整・価格安定化

リンゴ、ミカン、長芋、秋鮭

・ブランド化・エコー効果

NOMA：富山の羅臼昆布、恵比寿牡蠣

・経営・販売面、モチベーション

イメージ・信用力の向上

チャレンジ、生産者のモチベーションアップ

マーケティング、経営

考察：

日本でのマーケット自身では、あまり日の目を見ない食材でも、外国人から見るととても珍しくておいしいものもあるかもしれない。泉州代表の玉ねぎ、水ナス、里芋など海外には珍しい食材である可能性を秘めている。2020年のオリンピックパラリンピック開催時の選手への食材提供においても大いに需要及び販路拡大のチャンスもある。また、隣町泉佐野市のある企業では、水ナス等の酢漬けをおしゃれな小瓶に入れて、機内販売に採用されていることなど、アイデア次第で販路拡大につながる。今後も商工会をはじめ多くの商工農業の方々の現状を把握し、先進事例等を提案したいと考える。

以上

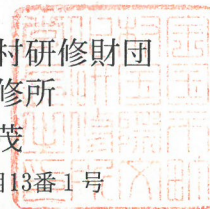
全国研第424号
平成29年8月29日

大阪府 熊取町議会議長様

公益財団法人全国市町村研修財団
全国市町村国際文化研修所

学長 松崎 茂

滋賀県大津市唐崎二丁目13番1号



研修受講の決定について

先にお申込みいただきました貴所属議員の研修受講について、次のとおり決定しましたので、お知らせいたします。

つきましては、以下の事項にご留意のうえ、所要の事務手続等についてよろしくお願ひします。

氏名	佐古 員規
コース名	平成29年度町村議会議員特別セミナー
研修期間	平成29年10月5日（木）～ 10月6日（金）

1 研修受講に要する経費の納入について

下記金額を指定期間内に指定口座へ振り込んでください。
なお、本決定通知をもって請求書に代えさせていただき、別途請求書は発行しません。

(1) 納入金額：6,650円 〈内訳〉 研修費(@1,200) 2,400円
食費 2,000円
研修生活動費 2,250円

(2) 指定期間：平成29年9月26日（火）～ 10月2日（月）

(3) 指定口座：滋賀銀行 唐崎支店 普通 No.461158
みずほ銀行 大津支店 普通 No.1705329
名義人：ザイ センコクシヨウリンケンシユサ イタン
センコクシヨウリンコクサイバンケンシユシヨ
(公財)全国市町村研修財団
全国市町村国際文化研修所

9/12
振込スミ

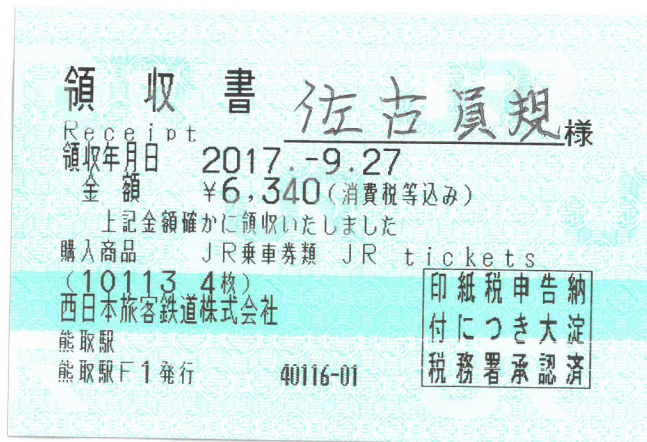
注1) 振込依頼書の「ご依頼人氏名欄」は、必ず貴団体名を記入してください。
注2) 貴団体からの振込通知書の送付は不要です。

ご利用明細票

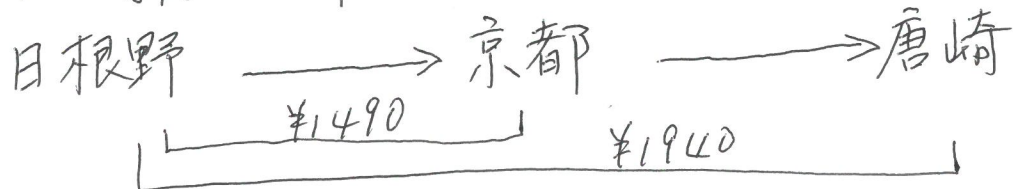
お取扱日	店番	お取引内容
29-09-12	40127	通帳送金
記号		番号
*****		*****5571
取扱番号	お取引金額	
N086	*6,650	
	残高	
	*223,915	
みずほ銀行		
大津支店		
普通	1705329	
サイセ ンコクシチヨウソクケンシユウサ イ ンセ		
送金料金	*216円	
振込予定日	29-09-13	
サコ カス ノリ		

ご利用いただきましてありがとうございました。

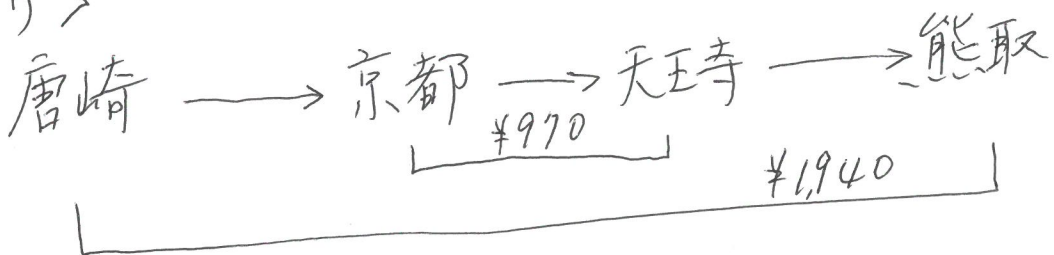
~~~~~ ゆうちょ銀行 ~~~~~



<行き> JR西日本



<帰り>



¥6,340 //